

令和4年度 山代中学校 校内研究計画

1 研究主題

「自己肯定感を高め、互いに学び合う生徒の育成」
～話し合い活動を通して～

2 主題設定の理由

今年度の本校の教育目標は「心豊かでたくましく、志をもつ生徒の育成」であり、重点目標として「自己肯定感・自己有用感の醸成『させて、褒めて、認める』』としている。具体的な方策として生徒が活躍できる機会を多く設定したい。そして、生徒同士の人間関係調整力が高まっていくような取り組みを推進していきたいと考えている。その背景に、各学年1学級になり、3年間同じメンバーで過ごす中で、リーダーが固定しがちであったり、過去の人間関係のトラブルを引きずったまま進級するケースが見られたりしたからである。

昨年度より新学習指導要領に完全移行し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて班での話し合い活動を授業に取り入れてきた。一見活発な話し合い活動に見えていてもその話し合いがどこに向かっているのか、何のための話し合いなのかが不明確であったり、発言する生徒が偏ったりしている様子が見られたため、話し合い活動の行い方を見直すことにした。つまり、誰もが意見を言い、仲間の意見に耳を傾け、話し合いの目的に沿って、班の総意としての意見を創りあげるような活動にしようというものである。

これまでの班活動で、自分の意見を自信がなくて言えなかった生徒やメンバー頼りで聞く一方だった生徒にも役割や発言の機会を与えることで、自分の意見を受け止めてもらい班の意見として取り上げてもらうという経験ができる。このことは、発言する自信になり、自己有用感の高まりにつながるものと考えられる。さらに、この話し合い活動のスキルを身につけると学習の場面だけでなく、生活の中で問題を解決していく際にも有効である。また、生徒会活動や各実行委員会等での生徒自治力や人間関係にもいい影響が見られるのではないかと考える。そして、自分たちで意見を練り、問題解決の経験を積み重ねることで自己肯定感が高まっていくことが期待できると考え、本研究主題を設定した。

3 めざす生徒像

- ・話し合うことを通して、課題解決や問題解決に主体的に取り組む生徒
- ・話し合いの目的を理解し、それぞれの意見や立場を考えて話し合いに取り組む生徒

4 研究組織と研究内容

(1) 研究推進委員会（校長・教頭・研究主任・各部長）

- ・校内研究会の企画、提案、総括
- ・研究内容の検討、進捗状況の確認
- ・情報発信

(2) 学級づくり部会

- ・学級経営全般（掲示物～【例】ありがとうの木～、係活動、学級通信等）
- ・朝活動（月に2回班活動による意見交流とシェアリング）
- ・生徒集会（学期に1回）の企画と実施
- ・生徒会、実行委員会の取組

(3) 授業づくり部会

- ・話し合い活動マニュアルの作成と修正
- ・各教科における話し合い活動の実際（事例研・演習）
- ・道徳科授業の年間計画と授業者輪番の確認
- ・道徳科授業における発問や交流学习の在り方

(4) 組織図



* 職員は、学級づくり部会と授業づくり部会のどちらかに所属するようにしているが、校務分掌の兼ね合いもあり、必要に応じて両部会を行き来することもある。その際は、研究推進委員会で調整をする。

5 研究計画

月		研究推進委員会	学級づくり部会	授業づくり部会
4	校内研1（全体会）	全体構想、計画	組織づくり・見通し	
	校内研2（部会）		朝の班活動について	マニュアル作成
6	校内研3（部会）	進捗状況確認	体育大会実行委員会 生徒集会	各教科の授業づくり
7	校内研4（全体会）		1学期の振り返り・修正	
8	校内研5（全体会）	全体会の企画	事例研・演習	
10	校内研6（部会）	進捗状況の確認	生徒会、生徒集会	道徳科の授業づくり
11	校内研7（部会）	進捗状況の確認	文化発表会実行委員会	マニュアルの見直し
12	校内研8（全体会）	全体会の企画	事例研・演習	
2	校内研9（部会）	まとめ	アンケートの実施・分析	
3	校内研10（部会・全体）	次年度への見通し	まとめ・次年度への見通し	

*内容の詳細については、推進委員会で各々検討する。

*授業研究会の実施についても検討する。